

# 公益財団法人 日本骨髄バンク 臨時理事会 議事録

1 日 時 2024年(令和6年)9月13日(金) 17時10分から18時

2 開催方法 WEB会議(本会議をWEB開催することに関して全理事の同意を得た)

3 定 足 数 理事現在数11名中、出席11名

(1)出席理事：11名(以下、敬称略)

岡本 真一郎(理事長)、佐藤 敏信(副理事長)、日野 雅之(副理事長)、  
浅野 史郎(業務執行理事)、石丸 文彦(理事)、大西 達人(理事)、  
鈴木 利治(理事)、瀬戸 愛花(理事)、高橋 聡(理事)、橋本 明子(理事)、  
福田 隆浩(理事)

注)定款第46条に規定する理事現在数の過半数を充足し、本理事会は成立した。

(2)欠席理事：0名

(3)出席監事：2名

杓沢 一晃(監事)、藤井 美千子(監事)

(4)陪 席 者：3名

細川 亜希子(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室室長補佐)

横田 友子(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室係長)

東 史啓(日本赤十字社血液事業本部技術部造血幹細胞事業管理課課長)

(5)事 務 局：6名

小川 みどり(事務局長兼ドナーコーディネート部長兼医療情報部長)

田中 正太郎(総務部長)、関 由夏(移植調整部長)、戸田 泉(広報渉外部長)、

荒井 茂(総務部TL)、水口 詞代(広報渉外部)

## 4 開 会

岡本理事長が臨時理事会の開会を宣言した。理事会運営規則第3条に基づき、事務局の出席が認められた。

## 5 議事録署名人の選出

定款第51条第2項により出席した理事長及び監事が議事録の署名にあたりとされた。

## [ 議 事 ]

### 6 審議事項

第1号議案：ドナー登録年齢、提供年齢の引き下げについて

第2号議案：寄付金等取扱規程の一部改正

第3号議案：ジーラスタ導入後の運用について

第4号議案：リモートコーディネート導入に伴うCO活動費、調整医師活動費について

## 7 報告事項

(1) 寄付金報告

(2) 採取件数・患者登録数報告

## 8 審議事項の経過概要と結果(敬称略)

(1) 第1号議案：ドナー登録年齢、提供年齢の引き下げについて … 水口(広報渉外部)

2つの年齢基準の変更について。

① 提供可能年齢下限を、現在20歳であるものを18歳まで引き下げる。

② ドナー登録可能年齢の上限を、54歳であるものを49歳まで引き下げる。

変更理由としては、若いドナーの登録が急務であり、限られたリソースを最大限有効活用するために実施するもの。

提供年齢の変更については、厚生労働科学研究班の解析結果を受け、ドナー安全委員会で引き下げを承認すると決定。倫理委員会において、ドナーへの説明等を追加したうえで、引き下げ及びインフォームドコンセントの手続き案を承認。

登録可能年齢については、8月の応諾率WGにおいて審議、引き下げを了承。

本日この理事会で、当法人としての方針について最終的なご判断をいただきたい。

今後、本日の決定を受け、関係各所との調整を進め、骨髄・末梢血幹細胞あっせん事業者連絡会議において合意形成を行い、必要に応じて厚生科学審議会造血幹細胞移植委員会において報告等を行い、2025年10月に変更した基準での運用を開始したい。

(主な意見)

<福田> 若い年代に広がることはいいことと思う。

<岡本> 世界的にもこの傾向。この方向で考えていいと思う。

<佐藤> いい方針だと思う。

<石丸> 50歳以上に対する説明は現時点どの程度準備されているか。

<小川> 55歳を49歳に引き下げることについてのアナウンスの具体的案はまだ。

<岡本> 年齢が高いドナーの方に丁寧に説明し、提供だけではなく、寄付などそれ以外でも協力することができるということ加え、ポジティブなアナウンスをしていただきたい。

審議の結果、第1号議案は全会一致で可決承認。

<小川> 今後関係する各方面や機関と、スケジュールなどを調整していきたいと思う。今後も進捗状況について報告しながら進めていく。

(2) 第2号議案：寄付金等取扱規程の一部改正 … 戸田広報渉外部長

寄付金受領時一律発行している領収証を、希望者のみに発行するようにするという変更案。

変更理由として、領収証の使い道はほぼ確定申告のためだが、Web 申告普及に伴って領収証を添付する必要性が減少。他団体も希望者のみに送付するという団体が増えてきている。

(主な意見)

<岡本> JMDP だけでなく、社会全体の流れである。

審議の結果、第2号議案は全会一致で可決承認された。

### (3) 第3号議案：ジールスタ導入後の運用について

… 小川事務局長兼ドナーコーディネーター部長

非血縁者間末梢血幹細胞採取持続型 G-CSF (ジールスタ/1回投与で済む G-CSF/血縁ドナーは22年3月から使用開始) 導入後の運用について、ドナー安全委員会です承された体制案のとおり導入してよいか。なお、非血縁においては12月コーディネーター開始分からジールスタを導入予定。ジールスタを用いた採取は来年2月頃になる見込み。

ドナーはジールスタ投与後、ほとんどの場合採取前日まで入・通院しないため、数日間医師と会わない間の健康確認体制について。

- ① 術前健診後に、どのような場合にすぐ医師に連絡すべきかを説明した動画の URL をドナーに送付する。
- ② G 投与日に、採取施設の外来フォロー体制や緊急連絡先を確認、ドナー手帳に記載。
- ③ 手帳のセルフチェックシートに毎日記載するよう案内。1個でも「はい」に該当したら採取施設に連絡すべき旨を案内。
- ④ 投与期間中、セルフチェックができていないか、「はい」がないかを、コーディネーターがショートメッセージ等で確認する。
- ⑤ 採取後4週間、週に1回、コーディネーターがドナーの体調を電話で確認。

(主な意見)

<日野> 安全委員会でも議論のうえ、今回の形とした。

<福田> 私たちの施設でも参考にさせていただく。週末の緊急対応の体制が難しい部分があるところも多いかと思うので、今後検討していきたい。

<大西> 全例ジールスタへの変更と考えるのか。選択肢の中にジールスタが入ることか。

<小川> 全例ではなく導入できるところから。

<大西> セルフチェックについての確認時、体調は変わらないかなど、確認をしてもらえるといいと思うが。

<小川> コーディネーターからドナーに連絡する際には通常「体調は変わらないか」等、一声かけている。

<大西> 採取後1週間も体調不良がでる可能性もあるかと思う。体調の確認はどのようになっているか。

<小川> 1週間のみならず基本的には4週間、何かあれば必ず連絡をという声かけは、必ず

実施している。

<岡本> どういうときに連絡をすべきか、細かいことはドナーにインストラクトされているのか。

<小川> そのとおり。特に、夜間・休日はここへ連絡、というのが今回追加されるので、今までよりもしっかりした体制で行えると思っている。

<日野> バンクとして、施設としても、ドナーにきちんといろいろなことを知っていただきたいと思っている。ドナー教育ではないが、情報をきちんとドナーに伝えられるような仕組みを作りたいと考えている。

<岡本> 伝えるだけでなく、しっかりと理解しているかをどのように確認するのかを検討してほしい。

審議の結果、第3号議案は過半数以上で可決承認された。

#### (4) 第4号議案：リモートコーディネート導入に伴うCO活動費、調整医師活動費について

… 小川事務局長兼ドナーコーディネート部長

リモートコーディネート導入に伴い、活動費を新設または修正する。

変更理由として、リモート面談の活用によるコーディネーターの拘束時間の変化及び調整医師の業務量の変化を勘案した。

コーディネーターにかかる主な変更点。確認検査にかかるリモート面談については、拘束時間が30分程度となるため4000円に。平日の9時～17時30分以外に面談開始の場合は、1000円加算。最終同意面談は、リモートの場合6000円。採取当日のコーディネーター病院訪問は、廃止する。

調整医師の変更点は、コーディネーターがリモート面談を行った場合、ドナーは一人で病院に来院し調整医師の業務負荷が増えるため、7700円に。

(主な意見)

<橋本> 案としては理解した。

<岡本> 採取当日について、コーディネーターがどこまで関与していたかという点、ほとんど関与がなかったと思うのだが。

<石丸> 最大限リモートを活用したとすると、コーディネーターは、対面がどのタイミングで何回あるのかと。

<小川> 全てにリモートを入れたときは、術前健診と入院と退院の3回。

<岡本> このような形でも問題ないと思っている。

審議の結果、第4号議案は全会一致で可決承認された。

## 9 報告事項の経過概要と結果(敬称略)

### (1) 寄付金報告 … 戸田広報渉外部長

7月にバンクニュースを発行した影響があるかと思うが、大幅に増えている。前年同期比と比べ27%ほどアップ。大変ありがたい。

**(2) 採取件数患者登録数報告 … 田中総務部長**

7月まで昨年度比でかなり減少していたが、8月に入って若干回復傾向。